

日本映画放送株式会社 第 49 番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 28 年 1 月 19 日 (火) 15 時～16 時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町 1-1-3 東京宝塚ビル 15 階  
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席: 委員総数 8 名 / 出席委員数 8 名  
出席委員(順不同、敬称略): 菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・  
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正  
放送事業者側出席者: 代表取締役社長 杉田 成道  
常務取締役 佐藤 信彦  
編成制作局長 宮川 朋之  
編成制作部員 秋永 全徳  
編成制作部員 槌谷 昭人  
番審担当 堤 靖芳  
清水 明 (記)

4. 議題 (1) 審議事項

時代劇専門チャンネル、オリジナル時代劇【藤沢周平新ドラマシリーズ】「遅いしあわせ」「冬の日」について

(2) 報告事項

日本映画専門チャンネル「総力特集 俳優・石原裕次郎」について

5. 議題 (1) 概要

時代劇専門チャンネルは、これまで主に池波正太郎原作ドラマをオリジナル時代劇として制作してきたが、2015 年度はもう一人の時代小説の巨匠、藤沢周平作品をオリジナル時代劇として映像化し、【藤沢周平新ドラマシリーズ】として 4 作品を連続制作・放送中である。今回は第 2 弾、第 3 弾となる短編ドラマ「遅いしあわせ」「冬の日」を見た後、以下のポイントに留意しながら審議を行った。

- 【藤沢周平新ドラマシリーズ】第 2 弾「遅いしあわせ」と第 3 弾「冬の日」は当チャンネルが制作した初めての短編オリジナル時代劇だが、その意義があったか。
- 女性主人公のオリジナル時代劇は 2 作目だが、女性視聴者を惹きつける内容か。

## 6. 議題（1）審議内容

- ・オリジナル番組は、有料チャンネルの言わば旗であり、チャンネルの色を強く打ち出すものであるが、今回の新シリーズも良い。町の隅々までが描かれ、江戸の雰囲気がよく伝わってくる。京都の撮影所パワー、職人集団の力に感動すら覚えた。これからも撮影所の大切な財産を若い世代に受け継いでいってほしい。
- ・「遅いしあわせ」の檀れいと「冬の日」の高岡早紀は共に幸薄いヒロインを演じているが、どちらも当たり役。ただ、同じシリーズ作品なのに、長さがバラバラで統一感がない。1時間に統一し、本数を増やせばシリーズ感がより出ると思うがどうか。
- ・大変な力作で見応えがあった。未加入者へのインパクトを与えるためにも、こうしたオリジナル作品はやはり本数が必要だと思う。
- ・女性を主人公にしたからといって、女性視聴者を惹きつけられるわけでもないと思う。むしろ、檀れいより加藤雅也のほうが時代劇好きの女性は興味を持つのではないか。両作品とも良い出来だが、2つの短編が加入に繋がるかという点、それは疑問だ。
- ・チャンネルの主要視聴者であるシニア世代が、のんびり見るのには最適だ。陽だまりの縁側のような温かさがある。ただ、2作品の差はあまり感じられず、同じ町の話なので、ふたつの話のエピソードが頭の中で混乱することがあった。
- ・「冬の日」には気持ちがホッコリした。2作共通して美術が良く、一膳飯屋のセットで使っている家具などに重厚感があり、リアルだった。近江八幡のロケも良いと思う。第1弾は90分と長尺だったが、今回の2作は約1時間とコンパクト。原作をいじって無理に長くする必要はないし、ピシッと締まった展開で気持ちよく見られた。
- ・私も1時間で満足感があった。独立したオリジナル作品なので、他の作品との関連を考える必要もなく、視聴者が気軽に見られるのも良いと思う。
- ・開局して17年、こんなに高いレベルのドラマが出来て驚いた。1作品ごとの視聴率より、こうした作品を積み重ねることが局のイメージアップになる。新しいデジタル技術を取り入れるなど更なる進化の可能性も含め、今後に一層期待している。

### <事業者回答>

- ・当チャンネル視聴者のメインは現在70～90代で、今回の2作品を演出した井上昭監督は86歳と、現実の視聴者に通じて良いとは思いますが、今後は若い世代にも通じる時代劇にも挑戦したい。シリーズ最終作の「三屋清左衛門残日録」は、そうしたことを念頭に監督をお願いした。
- ・【藤沢周平新ドラマシリーズ】と銘打って4作品をラインナップしたが、実は作品によってコラボレーションしている相手が異なり、その関係で作品の尺や狙いも違っている。本格的なシリーズ作品は、今後の課題だ。

## 7. 議題（2）報告事項

【日本映画専門チャンネル】「総力特集 俳優・石原裕次郎」について

2015年12月から始まった10カ月間連続企画「総力特集 俳優・石原裕次郎」は、日本映画専門チャンネルではこれまで殆ど放送実績のなかった石原裕次郎出演25作品を放送する大型企画。裕次郎の誕生日である12月28日に24時間丸ごと企画として12作品を一挙放送したところ、問い合わせ、加入、視聴率と大きな反応があり、手応を感じた。9月までの長期間、様々な企画で25作品を紹介していく予定である。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成28年3月15日(火)15時より開催。